



市民レポート 64

秋祭りの主役 だんじり

秋風にのって遠くのほうから太鼓と鐘の音が聞こえてくる。10月22・23日は川面地区のだんじりの日。「よーいさじゃ、どっこいさーじゃ」。子どもたちの掛け声も近づいてきた。さあ、今年もだんじりの季節です。

「秋祭りの主役 だんじり」
「秋風にのって遠くのほうから太鼓と鐘の音が聞こえてくる。10月22・23日は川面地区のだんじりの日。」「よーいさじゃ、どっこいさーじゃ」。子どもたちの掛け声も近づいてきた。さあ、今年もだんじりの季節です。

遠い昔から今へ

地車（だんじり）の歴史は古く、江戸幕府の頃、頭にはまげを結び、籠や牛が行き来していた有馬街道。その街道沿いの町並みを中心に「川面村の氏神様・川面神社」「安場村の氏神様・皇太神社」の秋祭りとして地車が登場。今に受け継がれている。仕事を休み参加する人、地方から戻って参加する人、だんじり祭りに地域がにぎわう。

受け継がれる

川面地区の財産

「地の者しか参加できない時代もあったが、今では誰もが参加できる祭りになった。たくさんの人に関わり



川面地区の3台の地車がそろう踏み。右から東（桃だん）西（黄だん）南（赤だん）の各地車（今年5月5日、西地車平成の大修理完成祝い）

地域とのかかわり

青年団

今年、3地域の青年団が一つになり「川面青年団」を結成。

その活動は地車の祭りととどまらず、地元コミュニティの盆踊り大会や運動会などへ積極的に参画し、地域や子どもたちに溶け込み大いに盛り上げてくれる。今どきの若いもん「イメージが変わった。」

夢の共演

だんじり大集合!!

「大きな夢は、市内19台

ある地車が一同に集結し、市内を練り歩くこと。19台も地車があることを知りびつくり。この「風だより」がぜひ

夢実現へのきつかけになって欲しいと思います。最後にお忙しい中、アンケートや写真を提供いただいた皆様に、お礼申し上げます。

参考文獻「川面のだんじり（川面地車保存会）」（玉城正恵）

- ①安倉地区
- ②住吉神社
- ③10月7日(土)・8日(日)
- ④「よーいさじゃ、どっこいさーじゃ」
- ⑤上安倉は彫刻地車、下安倉は太鼓だったが、昭和60年に地車を新調、今は2台の地車を曳行



- ①小林地区
- ②宝塚神社
- ③10月14日(土)・15日(日)
- ④「ヨイヤァサー！ヨイヤァサー！」
- ⑤地車大工「大佐」の明治中期の作。源頼光物で統一の彫刻は絶品！



- ①川面地区
- ②皇太神社、川面神社
- ③10月22日(日)・23日(月)
- ④「よーいさじゃどっこいさーじゃ」
- ⑤川面の人たちの心にもいつもあり、何物にも代えがたい私たちの宝物（地車の写真は右ページ）

- ①米谷地区
- ②売布神社、八阪神社
- ③10月18日(水)・19日(木)
- ④「ヨイサジャ ドッコイサジャ」
- ⑤青年団よつな会（OB）、米谷 清荒神自治会が一致団結。伝統を守り元気いっぱい地車を曳行



- ①中山寺地区
- ②市杵島姫神社
- ③10月23日(月)・24日(火)
- ④「よいしゃじゃどっこいさじゃ」
- ⑤地車は古いのが、改修、洗いでリフレッシュ！



- ①小浜地区
- ②皇大神社
- ③10月21日(土)・22日(日)
- ④「よーいさじゃどっこいさーじゃ」
- ⑤宝塚で一番古く、江戸時代中期の元禄13年ごろから曳行



- ①丸橋地区
- ②天満神社、松尾神社
- ③10月21日(土)・22日(日)
- ④「エーンヤコーリヤ、ドッコイサージャ」
- ⑤大きな地車に平安絵巻を思わせる錦糸銀系の刺繍で織った飾り幕

- ①山本地区
- ②天満神社、松尾神社
- ③10月21日(土)
- ④「よーいさじゃ」
- ⑤昨年、約100年ぶりに地車幕を新調。地区地車2台を曳行



- ①西谷地区 上佐首利
- ②素盞鳴神社
- ③10月8日(日)
- ⑤上佐首利だんじり小学生を乗せて、萬正寺境内を曳行



- ①西谷地区 大原野
- ②素盞鳴命神社
- ③10月7日(土)・8日(日)
- ④伊勢音頭
- ⑤中部だんじり、西部の布団太鼓、東部のやぐら太鼓が宮入り



- ①平井地区
- ②八坂神社
- ③10月21日(土)・22日(日)
- ④特になし
- ⑤平成6年に新調され、平井地車保存会に管理されている



- ①口谷地区
- ②春日神社
- ③11月1日(水)
- ④「ドオンコンドン ドンヤーラッセイ」
- ⑤参道「馬場先」本殿まで100メートルある

